

◆ 調査の目的

福井市観光振興計画において、特に市民と関わりの深い施策に関する調査を行いました。

まず、観光客に「おもてなし」を感じてもらうためには、市民に観光客を受け入れる気持ちがあることはもちろん、市民が自分から観光客にアプローチすることも大切と考え、「おもてなしの向上」について調査しました。

次に、福井を知り、良いところを自覚できる市民が増えていけば、観光客とのコミュニケーションが充実していくと考え、「ふるさと教育の推進」「観光を担う人材の育成」について調査しました。

詳しい設問と選択肢は「平成 29 年度 福井市民意識調査報告書」129 ページを、調査結果は 78 ページからご覧ください。

- 調査の結果、観光客に自分から声かけをする方の割合が 23. 2%、福井の良いところを人に勧めたり、説明したりすることができる方の割合が 58. 3%でした。

今回の調査結果を踏まえ、おもてなしに対する積極性が向上するよう、講習会や研修を実施しました。

★ おもてなし講習会の開催

福井国体プレ大会のボランティア 300 名以上を対象に、おもてなし講習会を実施しました。講習会は毎年受講対象者を変えて実施しています。

★ おもてなし接客術研修の開催

タクシー乗務員及び観光関連事業者を対象に、実際の接客に役立つ研修を実施しました。

★ 観光おもてなしマイスター認定制度の実施

笑顔で温かくお客様をお迎えできる方を、おもてなしの達人として認定しました。また、既存のマイスターを対象に、スキルアップ研修を実施しました。



◆ 調査の目的

市民のボランティア活動への参加状況や、参加しない理由を明らかにするため、調査を行いました。

詳しい設問と選択肢は「平成 29 年度 福井市民意識調査報告書」129 ページを、調査結果は 80 ページからご覧ください。

- 調査の結果、全体の 41.2%の方がボランティア「活動をしたい」と回答しました。

また、今後取り組みたいボランティア活動の分野として、「自然や環境を守るための活動」(17.8%)、「子どもを対象とした活動」(16.7%)、「高齢者や障がい者を対象とした活動」(15.7%)の割合が高いことが分かりました。

市民協働・ボランティア推進課では、ボランティア活動を始めるきっかけづくりの講座として、ボランティアアカデミーを開講しています。

その他にも、親子や仲間同士で多くの市民が参加しやすいボランティアイベントを開催します。

アカデミーやイベントについては、市ホームページや「広報ふくい」等でご案内いたしますので、皆様のご参加をお待ちしています。

★ ボランティアアカデミー

アンケート結果から関心の高いことが分かった福祉コースと子育て支援コースを、平成 30 年度も開講する予定です。

また、環境分野のコースについても、今後の開講を検討していきます。

★ ボランティアイベント

多くの市民が、親子や仲間同士で参加しやすいボランティアイベントを開催します。



◆ 調査の目的

食育については、朝食の摂取状況など、第3次福井市食育推進計画の数値目標となっていることから調査を行いました。

ブランド化については、ブランド化対象農産物及びブランド化に必要な取組の傾向を把握するため、調査を行いました。

詳しい設問と選択肢は「平成29年度 福井市民意識調査報告書」130ページを、調査結果は84ページからご覧ください。

○ 朝食欠食

朝食の欠食率が、若い世代（18～29歳 12.3%、30～39歳 14.4%）では全体（7.2%）と比較すると高くなっていました。

今後は、欠食の理由も明らかにしながら、若い世代に向けた対策について検討していきます。

○ 地産地消

全体の87.5%の方が、普段の食生活において地元の食材や食品を取り入れていると回答していることから、地産地消への関心の高さが確認できました。

しかし、年齢別に見ると70歳以上では97.8%と非常に高い一方、18～29歳では65.5%と、年齢が若くなるにしたがって低くなっていました。

そこで、若い世代の関心を高めるための取組として、若手の農業者等による直接販売の機会を設けました。

今後はSNS等を活用し、若い世代に向けた情報発信にも取り組みます。

○ 農産物のブランド化

70.9%の方が、福井市産の農産物としてPRするのは「ソバ」がよいと回答しており、55.2%の方が、農産物のブランド化には「イベントなどでのPR」が必要と回答しました。

そこで、来年度の国体の機会を利用し、「ソバ」を国体おもてなしイベントに提供してPRします。



◆ 調査の目的

福井市では、平成 22 年に〔改訂〕福井市都市計画マスタープランを策定し、その中で『暮らしの豊かさを実感できる「歩きたくなる」まち』を都市づくりの理念として掲げています。

その理念に基づく都市の将来像の実現を目指すため、都市計画マスタープランの達成状況について評価・検証を行い、施策等の達成度や効果を計る指標として、市民意識調査を取り入れています。

平成 29 年度においても施策等の達成度や効果を把握する必要があり、また立地適正化計画策定の参考とするため、調査を行いました。

詳しい設問と選択肢は「平成 29 年度 福井市民意識調査報告書」130 ページを、調査結果は 90 ページからご覧ください。

- 中心市街地に訪れる割合については、全体の 51.5%の方から「月に 1 回以上」訪れているとの回答を得ました。

この結果を踏まえ、中心市街地においては、更に多くの人に訪れていただけるよう、自然や歴史資源を活かしながら、賑わいのある魅力的な空間づくりに取り組んでいきます。

- 「鉄道の利用しやすい場所に住み替えたいと思うか」については、今回の結果を参考にしながら、「福井市立地適正化計画」の居住誘導区域の設定に向けた検討を進めてまいります。



◆ 調査の目的

福井市民の公共交通の利用状況及び公共交通についての認知度の把握、並びに福井駅西口広場開業の効果を検証するため、調査を行いました。

詳しい設問と選択肢は「平成 29 年度 福井市民意識調査報告書」130 ページを、調査結果は 91 ページからご覧ください。

- 日常生活でバス・鉄道を「利用していない」と回答した方が全体の 87.4% を占めましたが、その内、条件次第で公共交通を利用するようになる旨の回答※が 47.0% あったことから、使いやすい公共交通を実現し、利用者の増加を図るため、地元住民、事業者、行政の三者による、地域のバスの在り方について話し合う協議会を、新たに 1 地域で立ち上げました（清水地域）。

また、出前講座やイベントなどを活用し、公共交通の利用を促す取組を実施しました。

※ 問 3-3 「あなたは、どのようになると公共交通を利用するようになりますか」に対する回答のうち「改善状況に関わらず、当面利用することはない」「その他」「無回答」を除いたもの。



◆ 調査の目的

歩道上で自転車がどう思われているかについて市民の意識を把握するため、調査を実施しました。

詳しい設問と選択肢は「平成 29 年度 福井市民意識調査報告書」131 ページを、
調査結果は 94 ページからご覧ください。

- 調査の結果、92.9%の方が、歩道では自転車よりも歩行者が優先されることを「知っている」という回答でした。

しかし、歩道を歩いている時に、自転車を「危ない」「怖い」と思ったことがあるかの設問では、「よくある」「時々ある」「思った経験がある」人が85.6%にのぼることから、自転車走行空間の整備手法の検討や、ルール・マナーの啓発に取り組みました。



◆ 調査の目的

「福井しあわせ元気」国体・障害者スポーツ大会の機運がどこまで高まっているかを測るため、調査を行いました。

詳しい設問と選択肢は「平成 29 年度 福井市民意識調査報告書」131 ページを、調査結果は 96 ページからご覧ください。

- 国体・障スポが開催されることは多くの方に理解していただいています（「知っている」「いくつか知っている」「1つだけ知っている」「国体が開催されることは知っている」計 96.2%）が、福井市で開催される競技を知らない人が多い（「福井市の開催競技はひとつも知らない」49.4%）ことから、競技名を掲載したノベルティーを製作し、各種イベントや市内ショッピングセンター等で配布しました。

また、国体・障スポにどのように参加するのかを「知らない」人が 77.4%いる一方で、「参加したい」「機会があれば参加したい」人も 47.5%いることから、市民が参加しやすい環境を整えるため、競技観戦やボランティア、花プランターの育成、選手・監督に贈る記念品に添える応援メッセージの記入等、市民が活動できる内容を選択して参加する「福福応援団」を創設し、各種イベントや広報ふくい、市国体ホームページにおいて参加を呼びかけ、市内のショッピングセンターでチラシの配布を行いました。

今後、更に開催スケジュールや競技会場へのアクセス等市民が知りたい情報を、周知効果の高い新聞や広報紙等を活用し発信していきます。



◆ 調査の目的

ごみ収集車によるアナウンス（収集日案内、行政広報）に関する御意見が毎年多数寄せられるため、アナウンスに対する市民の意識を調査しました。

詳しい設問と選択肢は「平成 29 年度 福井市民意識調査報告書」132 ページを、調査結果は 102 ページからご覧ください。

○ 今回の調査は、ごみ収集車によるアナウンスの必要性及び適切なアナウンスの状況について、市民の意識を確認するために実施しました。

その結果、必要性については、「必要である」との回答が 63.8% ありました。状況については、「現状のままでよい」との回答が 49.9%、「特に意見はない」との回答が 23.8% ありました。

今回の調査を受けて、ごみ収集車によるアナウンスは、今後も現状どおりの運用を継続することにしました。



◆ 調査の目的

地球温暖化対策のための国民運動「COOL CHOICE（賢い選択）」の市民への認知度・浸透度を測り、今後の対策として、どのような取組が必要なのかを検討するため、調査を行いました。

調査結果は、福井市環境推進会議の会員をはじめとする事業者等への働きかけに活かしてまいります。

詳しい設問と選択肢は「平成 29 年度 福井市民意識調査報告書」132 ページを、調査結果は 104 ページからご覧ください。

- 地球温暖化対策のための国民運動「COOL CHOICE」について、全体の 57.8%の方から「知らない」との回答を得ました。
そこで、イベント出展時におけるPR活動や文書への「ロゴマーク」掲載など広報に努めました。
- 「環境保全のために行政に望むこと」として「環境保全に関する情報提供」が全体の 31.5%と最も高く、次いで「学校での環境教育の充実」（14.8%）との回答を得ました。
そこで、イベント開催時のパネル展示に加え、環境保全活動を担う人材育成のための講習会や、PTAを通じた環境学習会等を開催しました。
- 家庭にある環境に配慮した製品、設備については、「LED照明」が 31.7%、テレビやエアコン等の「省エネ家電」が 30.9%と高い回答を得ました。
他の製品や設備に比べ、価格の面からも買換え時に導入しやすいと思われるため、今後も引き続き普及促進に努めていきます。



◆ 調査の目的

選挙当日の投票所までの距離と移動手段との関連性を把握・分析するため、調査を行いました。

詳しい設問と選択肢は「平成 29 年度 福井市民意識調査報告書」132 ページを、
調査結果は 107 ページをご覧ください。

○ 投票所までの移動手段は、全体の 58.1%が「自動車（同乗を含む）」を利用しており、39.5%が「徒歩又は自転車」で移動しているという調査結果でした。

また、投票所までの距離と移動手段の関係では、投票所までの距離が 500m未満の場合は「徒歩又は自転車」で移動する割合が高く、投票所までの距離が 500m以上になる場合は「自動車（同乗を含む）」を利用する割合が高くなっています。

このような調査結果を踏まえ、今後の投票所のあり方について検討していきます。



◆ 調査の目的

福井市では「男女共同参画社会」の実現に向けて、市民の男女共同参画意識の醸成に向けて様々な施策に取り組んでいます。また、近年は「女性の活躍」を推進する施策にも積極的に取り組んでいます。

そこで、今後の施策の方向性を見出すため、市民の男女共同参画及び女性活躍に関する意識と実態を調査しました。

詳しい設問と選択肢は「平成 29 年度 福井市民意識調査報告書」133 ページを、調査結果は 108 ページからご覧ください。

- 福井市第5次男女共同参画基本計画の中で取り上げた課題に対する施策を効果的に進めるために、市民の皆さんの意見を伺いました。
- 自治会や防災・防犯活動に参加している女性の割合が、37.9%と回答を得ました。これまで地域活動等へ参加する女性が少ない現状がありましたが、参加割合が増加していました。
- 全体の 58.7%の方から、現在の学校教育の場において「まだ男女平等とはいえない」「わからない」と回答を得ました。
- 平日の男性の家事・育児時間は、1日平均すると 57 分でした。

この調査結果を踏まえ、以下のことに取り組みました。

★ 男女共同参画推進員による地域における啓発活動

各公民館から推薦された 98 名の男女共同参画推進員の皆さんに、男女がともに担う地域づくりを目指し、啓発活動に取り組んでいただきました。

★ 情報誌アイアムへ掲載

男性の家事・育児参画促進を目指し「朝カジプラス 10 分」を呼びかける記事を掲載しました。平成 30 年 9 月発行予定の同誌には、学校教育における男女平等の取組を掲載し、認知度を高めていきます。

★ 福井市男女共同参画・子ども家庭センターにおいて各種講座・セミナーの開催

講座・セミナーへの参加を通じて、男性に家事と育児の楽しさや実践する手法を学ぶいただきました。



◆ 調査の目的

福井市では、平成 28 年度から平成 33 年度までの 6 年間で計画期間とした、第 2 次健康増進計画「健康ふくふくプラン 21」を策定しています。

その中で「ずっと健康 101 宣言」をスローガンに掲げ、「元気体操 21」や「ベジ・ファースト」の普及啓発など、各種健康づくり事業に取り組んでいます。

今回、市民の健康づくりへの意識や取組の定着状況の評価のため、調査を行いました。

詳しい設問と選択肢は「平成 29 年度 福井市民意識調査報告書」133 ページを、調査結果は 111 ページからご覧ください。

- 全体の 77.4%の方が日常生活の中で運動を行っており、28 年度に比べ 6.5 ポイント高くなりました。その一方で年齢別にみると、働く世代である 18～59 歳で約 3 割前後の方が日常生活の中で運動を行っていないと回答しています。
 - 全体の 92.9%の方が日常の食事の中で野菜を食べており、性別では女性、年齢別では年齢の高い世代ほど割合が高くなっていました。
 - 全体の 88.3%の方から、「ベジ・ファースト（食事の最初に野菜から食べる）」という言葉を知っているとの回答を得ました。性別では女性の方が男性より高く、18～29 歳では、内容を知っている方が他の年代に比べ低くなっていました。
- 上記の結果から、正しい生活習慣の定着や生活習慣病予防を目的とした事業を以下のとおり実施しました。

★ 働く世代の出張健康講座

働く世代の人々に「健康」への関心を持ってもらい、生活習慣病の発症が多くなる前から正しい生活習慣の定着を図るため、18～59 歳（企業等で働く世代）を対象に運動教室や「ベジ・ファースト」をはじめとする栄養教室、健康教室を開催しました。

★ 「ベジ・すぽっと」の認定登録

「ベジ・ファースト」を広く普及啓発するとともに企業内での健康づくりを支援することを目的に、「ベジ・ファースト」に協賛していただける企業（社員がベジ・ファーストに取り組む企業や野菜料理を提供する店舗等）を「ベジ・すぽっと」として認定し、ホームページで紹介するほか、普及啓発グッズの無償配付を行いました。

★ 「わが家のベジレシピコンテスト」の開催

「ベジ・ファースト」の意識づけや実践につなげていただく機会として、市民の皆さんから簡単に作れる野菜レシピを募集し、「わが家のベジレシピコンテスト」を開催しました。193 作品の野菜レシピの応募があり、上位入賞者によるコンテストを開催しました。

★ 「ベジ・ファースト」野菜レシピ集の配布

「わが家のベジレシピコンテスト」に参加された方のレシピ集を作成し、各保健センターや市役所、各総合支所、図書館等に設置しました。



◆ 調査の目的

木造住宅の耐震化促進の手法として補助制度を設けていますが、なかなか耐震改修に結びついていないため、耐震改修を行わない理由について調査を行いました。

詳しい設問と選択肢は「平成 29 年度 福井市民意識調査報告書」133 ページを、調査結果は 114 ページからご覧ください。

- お住まいが地震によって倒壊すると分かった場合において、耐震改修工事を行う意志がある方の割合が 33.9%にとどまったことから、戸別訪問や出前講座等の啓発活動を強化し、耐震化の必要性について周知に努めました。
- 耐震改修工事を行うかどうかについて「耐震改修にかかる費用による」と回答した方は全体の 18.4%、「耐震改修を行うのは難しい」と回答した方は全体の 16.8%であり、その内「費用負担が大きい」と回答した方が 70.1%であることから、耐震改修においては費用負担の軽減が課題であることがわかりました。
そのため、昭和 56 年 5 月以前に建てられた一戸建て木造住宅の耐震改修工事に対する補助制度について、戸別訪問や出前講座等を実施し、周知に努めました。

